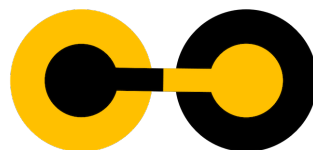
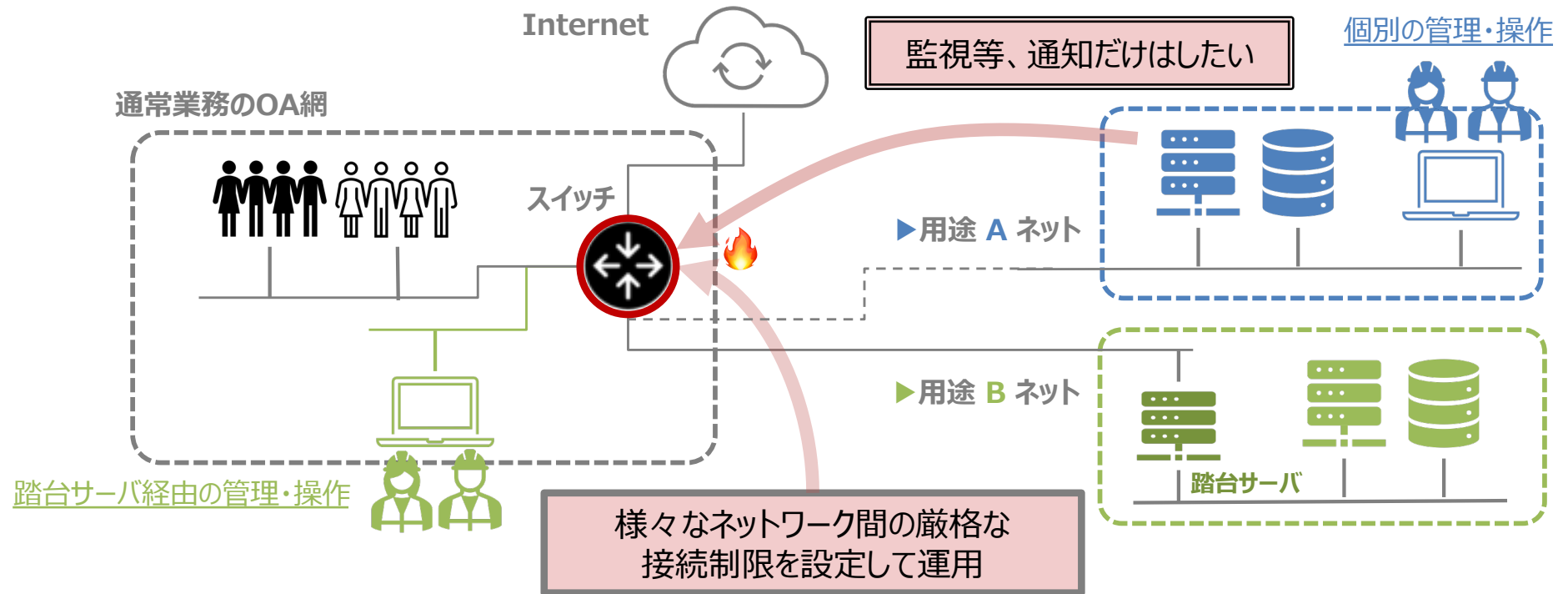


RemoNavi SaaS | オンプレ製品 システム開発におけるゼロトラストの適用



<https://remonavi.com>

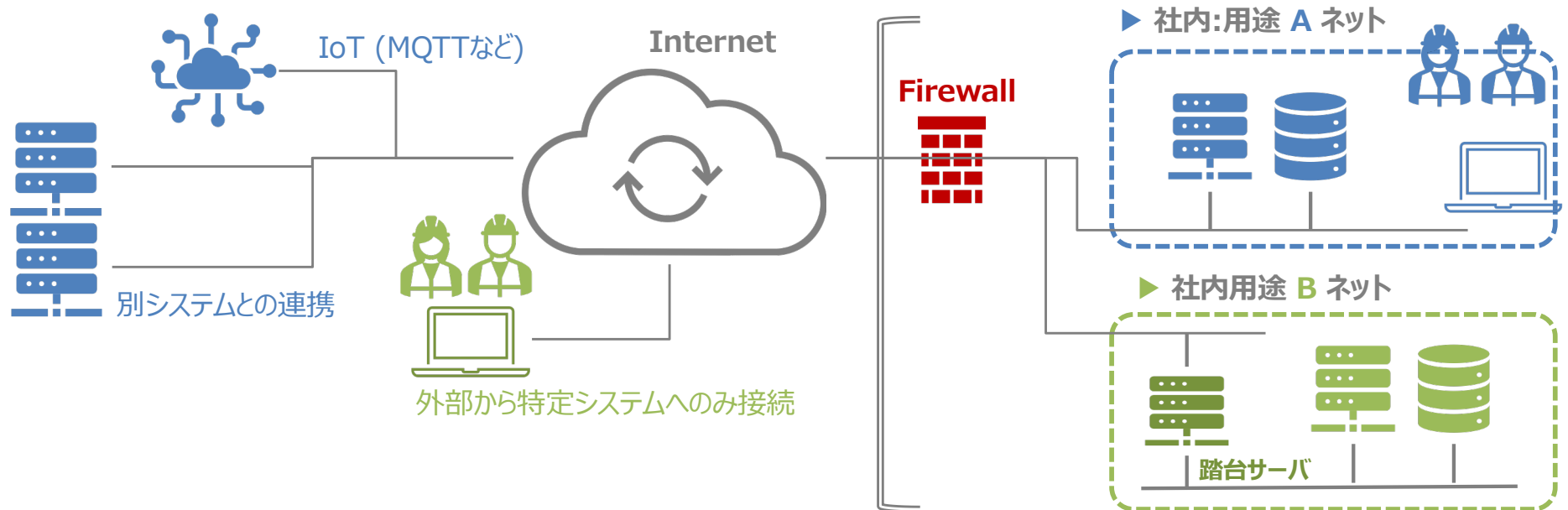
どんなシステムに必要か？（その1）



- ◆ 社内の様々なネットワークを L2/L3スイッチ にて設定しなければならないシステム
- ◆ 用途Aの独立したネットワーク構成でも、通知のためだけに接続するなどのシステム
 - スイッチ設定が**複雑**かつ、用途ネットが増えるごとに**累積**して更に複雑に（ネット設計・難）

リモナビ の ゼロトラスト ならこれらを容易に解決します

どんなシステムに必要か？ (その2)



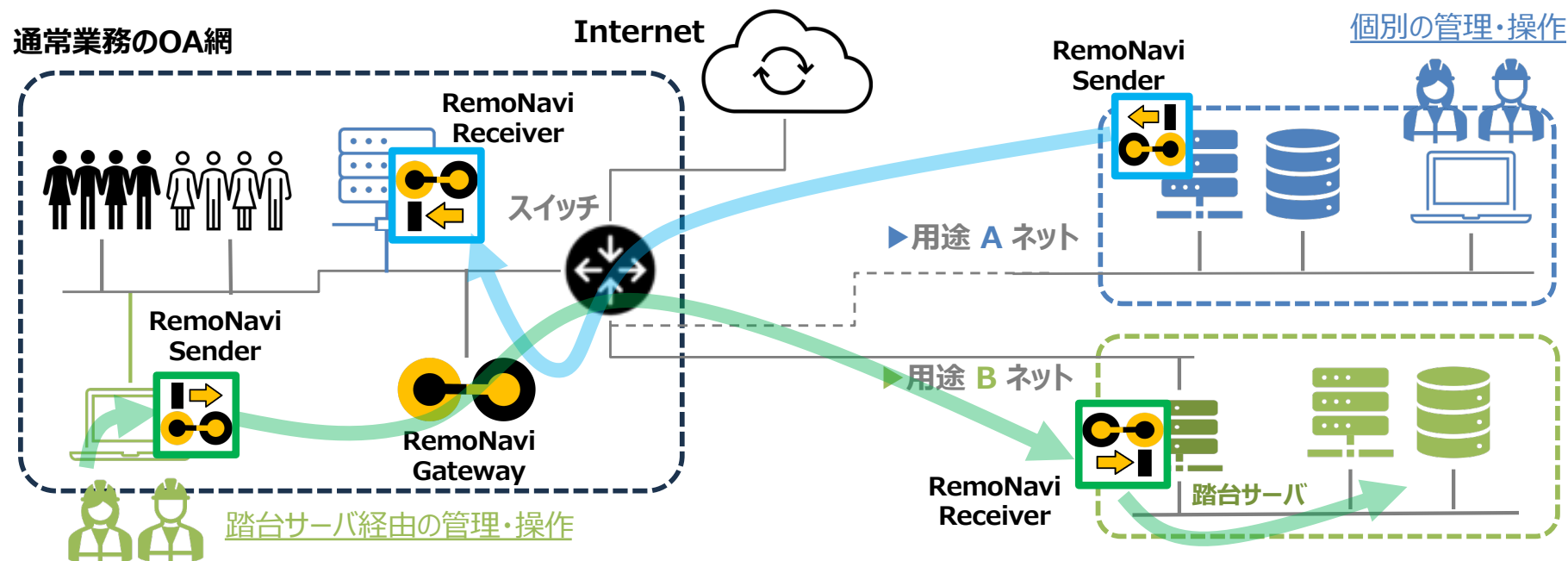
◆ 作業者が都度VPNアクセスするのではなく、常時、特定リソースにアクセスする

- 既存システムをクラウド配備にせずとも、境界を超えた接続（例：IoT等のデータ収集）
- その1の様々な社内ネットに加えて、社外からも一部の通信を容易に通したい

◆ 外部作業者がVPNアクセスするのではなく、接続対象リソースへのピンポイント・接続のみ提供

- 社内ネットへのアクセスではなく、当該システムへのみのアクセス
 - ・ 例）運用の外部アウトソーシング

その1：様々なプライベートネットのリモナビ接続



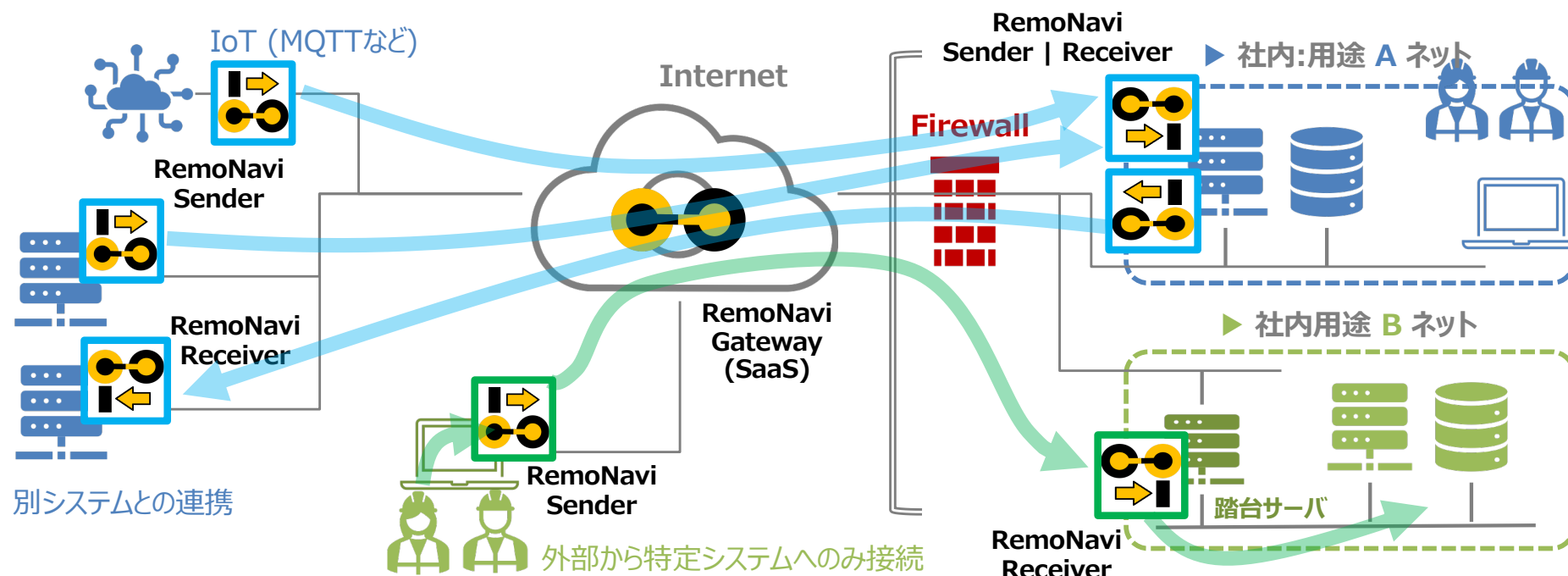
◆ RemoNavi（ソフトウェア） 配備するだけで L4レベルの通信が可能

- スイッチ には RemoNavi Gateway との接続許可を設定するだけ。
 - ・ 繊細なネットワーク設計や接続節制限が不要
 - ・ 用途ネットの増減設に、容易に対応可能
- RemoNavi 通信は全て暗号化、権限付与された利用者のみ通信可。
- RemoNavi Gatewayにて 全ての接続ログを保存。

◆ RemoNavi はソフトウェアのため、Gatewayを複数配備することが可能

様々な利用者環境にも ジャストフィット

その2：境界を超えたリモナビ接続



通信的には、その1と同じです。

◆ RemoNavi のクラウド配備 | SaaS によって境界超えのゼロトラスト接続を実現

- Gatewayをクラウドに配備するだけ (Receiverは TCPクライアントのため、DNAT/ポートフォワーディング設定不要)

◆ RemoNavi を複数使ったタンデム接続も可能

